

平成21年度における児童・生徒の問題行動等の実態について（都内私立学校分）

1 調査の趣旨

この調査は、都内私立小学校、中学校、高等学校（全日制・定時制）、特別支援学校を対象として、平成21年度（平成21年4月1日～平成22年3月31日）における「暴力行為」「いじめ」「不登校」「高等学校における長期欠席者」「高等学校における中途退学者」等の実態を把握するために実施したものである。

<調査対象> 平成21年度学校基本調査（平成21年5月1日現在）による。

都内の私立小学校	53校	(児童総数 27,006人)	
都内の私立中学校	184校	(生徒総数 82,601人)	休校含む
都内の私立高等学校	237校	(生徒総数173,933人)	休校含む
都内の私立特別支援学校	4校	(児童・生徒総数 179人)	

※ ただし、「高等学校（全日制）における中途退学者数・原級留置者数の状況」については、平成21年4月1日現在の高等学校の生徒（普通科161,211人、専門学科11,180人）が対象である。

2 調査結果の概要

(1) 私立小学校、中学校、高等学校における暴力行為の状況

【資料の1 (P3～4) 参照】

平成20年度に比べ、暴力行為の発生件数は、小学校、中学校において減少、高等学校において増加している。

学校内で発生した暴力行為は、小学校で全体の5.7%にあたる3校で4件、中学校で全体の18.5%にあたる34校で132件、高等学校では全体の21.5%にあたる51校で200件発生している。

学校外で発生した暴力行為は、小学校では発生しておらず、中学校で全体の2.7%にあたる5校で5件、高等学校では全体の5.5%にあたる13校で13件発生している。

(2) 私立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校におけるいじめ※の状況

【資料の2 (P4～5) 参照】

平成20年度に比べ、いじめの認知件数は、小学校においては増減なく、中学校において増加、高等学校において減少している。

いじめは、小学校で全体の20.8%にあたる11校で32件、中学校で全体の29.3%にあたる54校で164件、高等学校で全体の18.6%にあたる44校で96件発生し、特別支援学校では、発生していない。

※ 本調査において、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

【問い合わせ】 生活文化局私学部私学行政課
直通 03-5388-3194

(3) 私立小学校、中学校における不登校※児童・生徒の状況

【資料の3(P6)参照】

平成20年度に比べ、不登校児童・生徒数は小学校において増加、中学校において減少しており、指導の結果登校できるようになった児童・生徒の割合は、小学校、中学校において増加している。

不登校児童・生徒は、小学校で全体の37.7%にあたる20校、中学校では全体の71.2%にあたる131校で発生している

不登校児童生徒数は、小学校で、児童総数の0.1%で33人、中学校では生徒総数の0.9%で717人となっている。

※ この調査の「不登校」とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にあることをいう（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く。）。

この調査の「不登校児童・生徒数」とは、不登校により平成21年4月1日から平成22年3月31日までに連続又は断続して30日以上欠席した児童・生徒をいう。

(4) 私立高等学校における長期欠席者※の状況

【資料の4(P6)参照】

平成20年度に比べ、長期欠席者数は全日制・定時制ともに減少している。

長期欠席者数は、1,490人で、全日制は1,439人、定時制は51人である。理由別に内訳をみると、「病気」は、全日制506人、定時制9人で、「経済的理由」は、全日制13人、定時制1人で、「不登校」は、全日制788人、定時制41人で、「その他」は、全日制132人、定時制0人である。

※ この調査の「長期欠席者数」とは、学校基本調査の小・中学校における「長期欠席者」に準じ、「平成21年4月1日から平成22年3月31日までに30日以上欠席した児童・生徒」をいう。

(5) 私立高等学校（全日制）における中途退学者数の状況

【資料の5(P7～8)参照】

平成20年度に比べ、中途退学者数は減少している。

退学者数は、1,705人であった。これは、対生徒比率（退学率）が1.0%であり、前年度（退学者数2,115人、退学率1.2%）と比較すると、退学者数は410人の減少、対生徒比率（退学率）は0.2%減少であった。

退学理由としては、第1位が「進路変更」で576人、第2位が「学校生活・学業不適応」で459人、第3位が「病気・けが・死亡」で149人となっている。

(6) 私立高等学校（全日制）における原級留置者数

【資料の6(P8)参照】

平成20年度に比べ、原級留置者数及び対生徒比率は減少している。

平成22年3月31日で原級留置となった生徒数は250人（対生徒比率0.1%）であり、前年度（341人、同0.2%）より減少した。